

工学デザイン 実習V

Erik van Blokland
Just van Rossum

2211029 小笠原和希

Erik van Blokland Just van Rossum

1

FIRST PART

生涯と業績

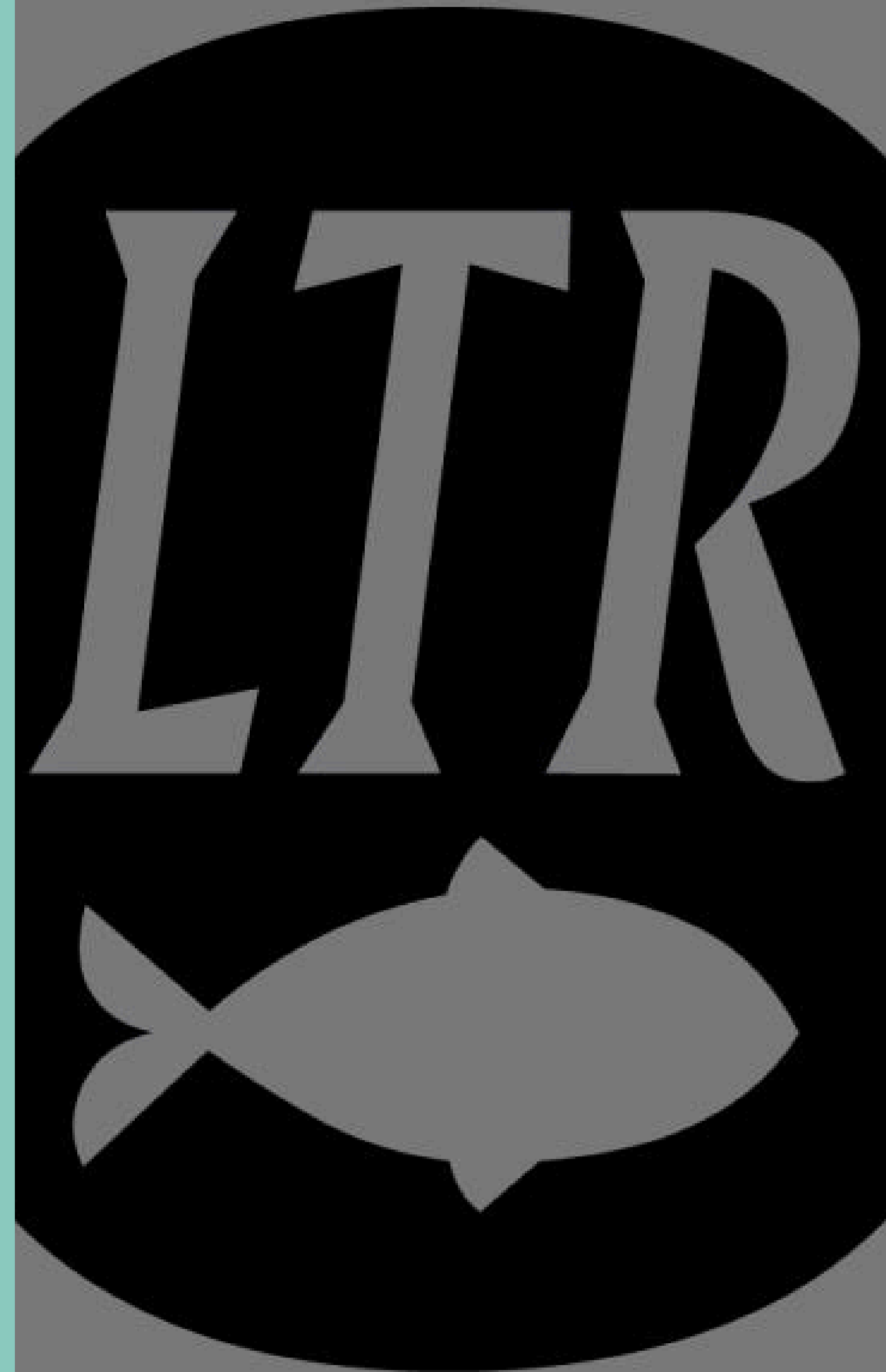
2

SECOND PART

IS BEST REALLY BETTER

FIRST PART

生涯と業績



生涯と業績



エリック・ヴァン・ブロックランド

1967年、オランダ・ハウダ生まれ

1989年、ハーグ王立芸術アカデミー
(KABK) を卒業

1999年よりKABKの「TYPEMEDIA」修士
課程で教鞭をとり、現在は同プログラムの
責任者を務める

代表的なフォント：

FF TRIxie、LTR FEDERAL、
EAMES CENTURY MODERN、ACTION
CONDENSED

デザインツール開発：TYPECOOKER、
MUTATORMATH、SUPERPOLATOR

生涯と業績



ジュスト・ヴァン・ロッサム

1966年、オランダ・ハーレルム生まれ

1989年、ハーグ王立芸術アカデミー
(KABK) を卒業

指導教官は著名なタイプデザイナー、ヘリッ
ト・ノールツァイ

現在、KABKの「TYPEMEDIA」修士課程お
よびグラフィックデザイン学科でタイプデザ
インとプログラミングを教えている。

代表的なフォント：FF LEFTHAND

プログラミングツール開発：TROBOFOG、
FONTTOOLS/TTX、DRAWBOT

生涯と業績

FF Trixie

by Erik van Blokland

Action Condensed

ALL THE
FEDERAL
MONEY

LTR Federal



FF Justlefthand

by Just van Rossum

SECOND PART

IS BEST REALLY BETTER

A large, bold, black number '2' is centered on a solid green background. The number is stylized with a thick stroke and a slight curve at the top.



IS BEST REALLY BETTER

デジタル技術のタイポグラフィへの影響

当時のデジタルタイポグラフィは「完璧さ」を目指す傾向にあったが、初期の印刷技術には手作業による揺らぎや個体差が存在し、それが独特の味わいを生み出していた。デジタル技術は精度を高めたものの、均質化によって生きた感覚や人間味が失われる可能性が指摘されている。このような状況に対し、ヴァン・ブロックランドとヴァン・ロッサムは、意図的な不完全さやアナログな質感をデジタルで表現するフォント（例：BEOWOLF）を提示し、デジタルでありながら予期せぬ変化や個性を持つタイポグラフィの可能性を探求した。彼らの試みは、デジタル技術による完璧さが必ずしも「より良い」とは限らないという問いかけを含んでいたと言える。

IS BEST REALLY BETTER

ランダムフォントの可能性

デジタル技術による均質化されたタイポグラフィへの対抗として、ヴァン・ブロックランドとヴァン・ロッサムはランダム性を導入したフォント）（例：BEOWOLF）を開発した。このフォントでは、同じ文字でも出力ごとにわずかに異なる形状で表現されることで、手書きのようなニュアンスや予期せぬ変化による視覚的な面白さ、そしてデジタルでありながらアナログな感覚が生み出される。これは、デジタル技術によって失われがちな、生きた感覚や有機的な印象を取り戻し、より人間味があり表情豊かなタイポグラフィ表現を追求する試みであった。

IS BEST REALLY BETTER

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
NOPQRSTUVWXYZ
0123456789+-`/[]#%^()[]

IS BEST REALLY BETTER

ツールの役割

創造的な専門分野において、ツールは単に作業を効率化するだけでなく、プロセスそのものの、そして最終的な結果に深く影響を与える。ツールは私たちの思考や操作を規定し、表現の可能性を左右するものであり、手書きとデジタルフォントエディタでの文字作成の違いがその一例である。「ツールを変えることは、思考を変えることでもある」と述べられているように、新しいツールの導入や既存ツールの異なる使用は、新たな視点やアプローチを生み出す。ツールは単なる道具ではなく、創造性を引き出す触媒のような役割を果たし、どのようなツールを使うか、どのように使うかによって、デザイナーの思考や表現の可能性が大きく左右される。